

■田老地区復興まちづくり計画（素案イメージ）作成にあたっての情報共有

第3回検討会においては、これまでに検討されてきた意見を「地区復興まちづくり計画（素案イメージ）」として整理しています。

ただし、複数の考え方があがる個所や関係機関との協議などにより再度検討すべき事項などを以下に整理しています。

複数の考え方があがる個所や関係機関との協議などにより再度検討すべき事項

1. 住宅地について 分散移転 ⇔ 周辺を含めた一体移転	
2. 野中地区、野原地区の土地利用について ① 野中地区・・・運動公園、遊水池、農地、集団農場。新産業、養殖、ソーラーパネル、スポーツ施設や市民会館、一時避難場所兼用の立体駐車場 ② 野原地区・・・漁業施設、水産加工施設 ⇔ 住めるまちにできないか	再検討
3. 野原山側の土地利用について（ひな壇のように整備）	再検討 浸水しない高さはTP12m程度。 必要盛土高は7m程度になる。
4. 駅前地区の土地利用について	再検討
5. 小林地区（インターチェンジ予定地周辺）の土地利用について	再検討
6. 国道45号山側の嵩上げ高さについて	浸水しない必要盛土高は最大で3.8m シミュレーション結果による
7. 国道45号について ① 嵩上げする ② ルートを防潮堤に沿わせて変更	国としては災害時にも寸断されない道路整備として、三陸縦貫自動車道の整備を行う。そのため、積極的に国道45号の嵩上げを実施することは考えていない。まちづくりと一体となった嵩上げは考えられる。ただし、国道の嵩上げにより利便性が劣らないよう国道の両側沿道の土地利用を考える必要がある。 防潮堤に沿ったルート変更は、防潮堤の復旧整備にあたり、その災害査定が年内に予定されている。これから計画を変更して年内の災害査定に間に合わすことは時間的に難しいことや災害復旧制度以外の事業によることは考えにくい。
8. 県道有芸田老線について ① 嵩上げする	インターチェンジとの接続状況による。
9. 防潮堤について ① 線形の見直し ② 防潮堤上に車道を設ける	防潮堤の復旧整備にあたり、その災害査定が年内に予定されている。 これから計画を変更して年内の災害査定に間に合わすことは時間的に難しいことや災害復旧制度以外の事業によることは考えにくい。防潮堤の天端幅は現況幅となる。
10. 河川堤防について ① 河川堤防を嵩上げし川に津波を逃がす	田老川、神田川、長内川は津波を遡上させるに十分な断面をもっておらず大きな効果は得られないと考える。また、川に逃がすことにより今回被災していない区域が新たに被災する恐れが生じてくる問題もある。
11. 小学校、中学校の北高校周辺への移転について	再検討
12. 駅の位置について	再検討

1. 復興まちづくりを検討する際の前提となる津波シミュレーションの条件

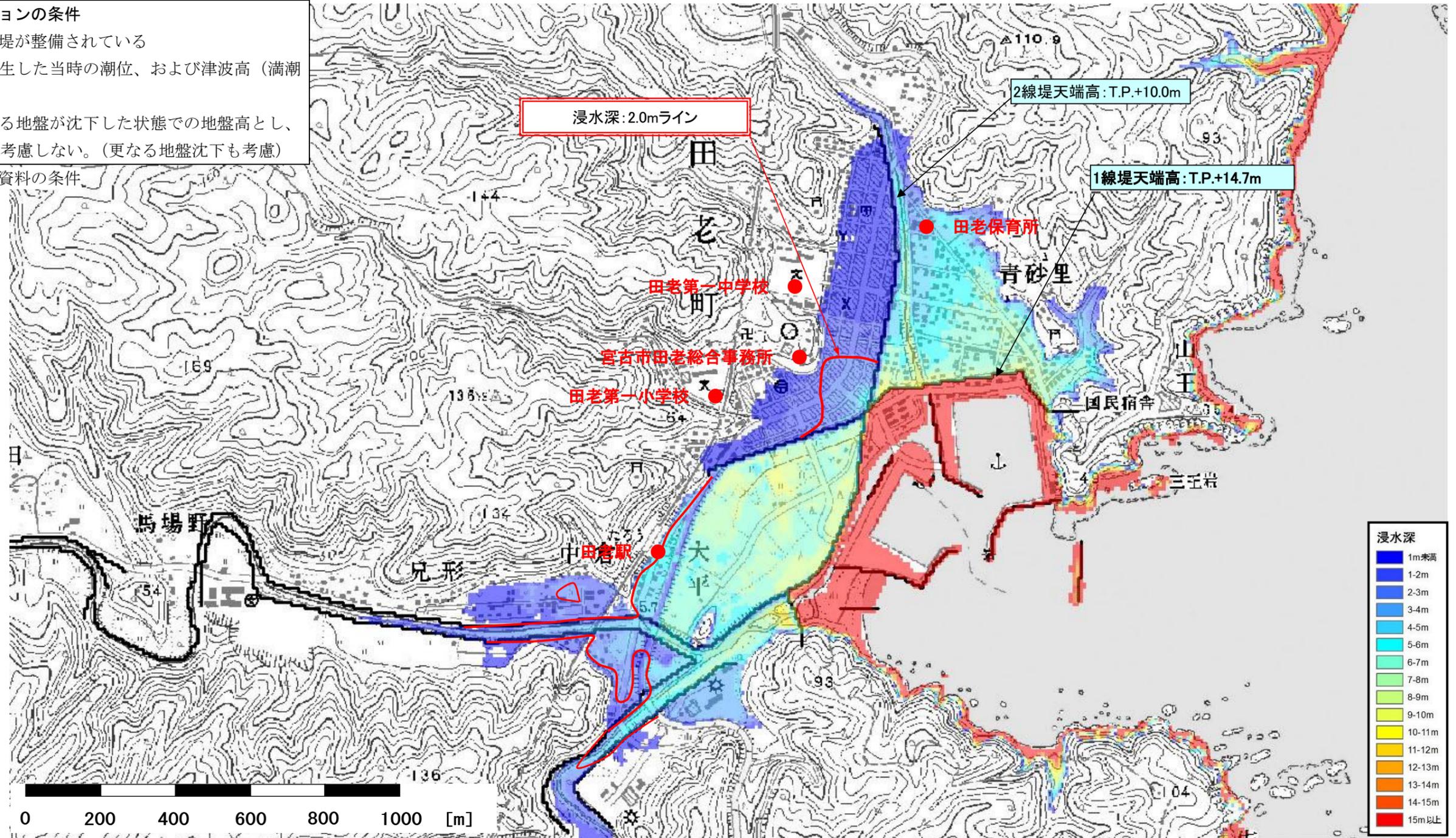
これまでの検討会で津波シミュレーションの情報を発信してきましたが、県から復興まちづくりを検討する前提となる津波シミュレーションの条件が示されました。

●復興まちづくりの前提条件を踏まえた津波シミュレーション

●津波シミュレーションの条件

- ・県が決定した防潮堤が整備されている
- ・東日本大震災が発生した当時の潮位、および津波高（満潮時の潮位）
- ・東日本大震災による地盤が沈下した状態での地盤高とし、更なる地盤沈下は考慮しない。（更なる地盤沈下も考慮）

※（ ）が前回配布資料の条件



参考:

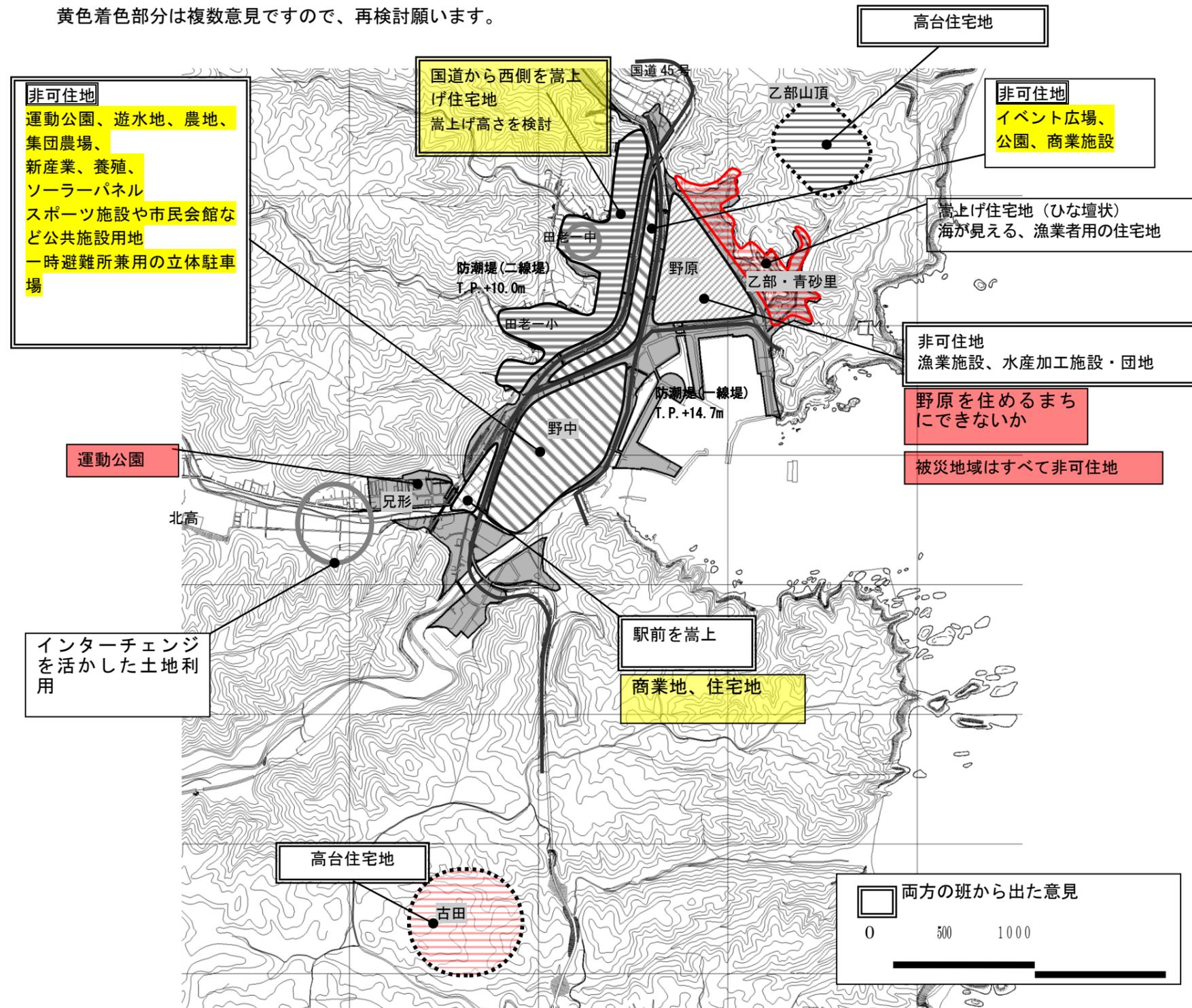
地区復興まちづくりの目標から見た検討案の比較

区分		全戸移転（周辺も含む） （グリーンピア）	全戸移転（周辺も含む） （古田）	現地嵩上げ+近接・分散移転
内容		全戸が一体的にグリーンピアに移転して、新しいまちづくりを進める。	全戸が一体的に古田に移転して、新しいまちづくりを進める。	津波からの一定の安全性が確保できるよう国道45号山側を嵩上げし、その他は近接する高台へ移転する。
誰もが安心して住めるまち、災害に強いまち	津波からの安全性	○高い安全性が確保できる。 ○防潮堤の整備に関係なく安全なまちづくりを進められる。	○高い安全性が確保できる。 ○防潮堤の整備に関係なく安全なまちづくりを進められる。	△～○千年に一度の津波の場合、嵩上げ部は浸水する可能性がある。 △～○防潮堤が未整備の間は、津波危険性がある。（早期整備の場合は問題はない）
住環境が良く、人に優しいまち、楽しいまち、ふるさとといえるまち	コミュニティの一体性	○一体的なコミュニティ形成が可能となる	○一体的なコミュニティ形成が可能となる	△他案に比較して分散する。
	まちの歴史や記憶の継承	△一からのまちづくり・生活再建となる。	△一からのまちづくり・生活再建となる	○これまでの歴史や記憶をある程度継承できる。
漁業のまち、観光のまち、海と親しむまち	漁業と居住の場	△田老港から遠くなるなど、生活と生業の場が遠隔化する。	△田老港から遠くなるなど、生活と生業の場が遠隔化する。	○ある程度生活と生業の場が近接する。
	海との親しみ	△海から離れた暮らしとなる	△海から離れた暮らしとなる	○海に近い暮らしが他案より可能となる。
商業のまち、製造業のまち、産業が盛んなまち	他地域や市の中心部とのつながり、駅や三陸道IC等との近接性	△他地域や交通施設から遠隔化する △国道45号から引き込んだ場所となる。	△～○比較的近接するが駅からは遠隔化する。 △国道45号から引き込んだ場所となる。	○他地域や交通施設に比較的近接する ○他案に比較して、国道45号を活用した地域の活性化の可能性が高い
その他	実現までの時間（事業期間）	△住民合意、多大な造成工事の問題など、時間を要する。	△住民合意、多大な造成工事の問題など、時間を要する。	○全戸移転より早期にできる。
	その他	△現状のグリーンピアにかわる新しい用地の確保。施設整備が必要である。		
		×移転を望まない人、被害を受けていない住宅も移転することとなる。	×移転を望まない人、被害を受けていない住宅も移転することとなる。	○被害を受けていない住宅や、防潮堤整備により安全性が高まる人は無理に移転する必要がない。
		×危険区域から移転する方には補助の制度があるが、そのほかは自己資金による移転が伴う	×危険区域から移転する方には補助の制度があるが、そのほかは自己資金による移転が伴う	
	×防潮堤の整備がされず、海岸付近の土地利用に影響がでる。	×防潮堤の整備がされず、海岸付近の土地利用に影響がでる。		

土地利用について

赤色着色部分を検討により、割愛しています。

黄色着色部分は複数意見ですので、再検討願います。



道路、防災等の施設の方針

赤色着色部分を検討により、割愛しています。

